

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471400372
法人名	有限会社 エニー介護サービス
事業所名	グループホームやまきた
訪問調査日	平成20年6月6日
評価確定日	平成20年7月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1471400372
法人名	有限会社 エニー介護サービス
事業所名	グループホームやまきた
所在地	神奈川県足柄上郡山北町山北785 (電話) 0465-79-1088

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年6月6日	評価確定日	平成20年7月31日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	25 人	常勤 11 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 13.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1		名	要介護2	6 名	
要介護3	6 名		要介護4	3 名	
要介護5	3 名		要支援2		名
年齢	平均 84 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおり医院、小原歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ここはJR御殿場線山北駅から10分と至近でありながら自然に恵まれた立地にある。経営者の介護に対する思いが強くかなり設備に力をいれた建築となっている。圧力式空気循環装置(呼吸の道タワー)、マイナスイオン発生装置、はめ込み式エアコン、入浴リフト、シャワー入浴装置、床暖房、ウッドデッキなど多くの設備が含まれている。医療の面では連携体制の申請はしていないが近隣の開業医による往診と24時間連携の確保、訪問看護ステーションの活用などで実質、医療連携体制以上のケアが実現出来ている。また、介護の厚味を増す目的で昼の食事専任の職員を配置し、常勤の職員はケアに専念出来る体制を取っている。エニー介護サービスはこのグループホームの他に訪問介護・居宅介護支援事業所を持ち、多機能で利用できるようになっており、居宅介護支援事業所長は社会福祉士・精神保健福祉士であり、精神面も含めた内部研修も充実している。手作りの押し花バックの額に優しく示されたシンプルな理念がこのホームの行き届いたケアを象徴している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域に根ざした展開により当初から地域に密着したホームであったが、「常会」(地域の集まり)などの連携で更に深まったので、今年度は近隣の小中学校との交流を目指し実現することが出来た。中学校については体験学習を地域福祉施設で分担して受け入れ、役所・社協がまとめをし定着している。小学校の場合はクラブ活動の福祉のボランティアとして小学生の訪問があり、来た子どもがクラス担任の先生に話し、先生からクラス単位で訪問したいとの申し出があり、4年の他のクラスも来たいとのことで定期交流が定着した。ホームが通学路であり、訪問に来た子供たちが個別に遊びに来ることも増えた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については時間的な関係もあり、職員全員に自己評価票を書いてもらうことはせず、フロアリーダーを中心に意見の集約を行い、フロアリーダーが纏めたものを持ち寄って管理者中心に相談して作成した。評価のプロセスでの気付きや評価の指摘事項については改善計画を作成し改善に取り組むことにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は山北町等の協力を得て平成18年11月に第1回目の運営推進会議を開催した。その時は会議終了後、開催した芋煮会では利用者も参加しメンバーの方たちとの交流が持て有意義であった。メンバーは山北町役場健康福祉課長、地域包括センター長、自治会長、民生委員、ご家族代表それに事務局でホーム関係者で実施した。利用者は会議には参加しなかったが、会議終了後に開催した芋煮会では利用者も参加しメンバーの方たちとの交流が持て有意義であった。今年度はまだ未開催であるがイベントとの併設で開催出来るよう企画している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は非常に良く訪問してくれ、多い人は毎日、最も少ない人でも月2回以上の訪問がある。家族との連携は強く、ホーム主催のイベントにはご近所、ご家族が多く参加してくれる。納涼会は盛大で、ご近所の方も喜んでくれている。バザーでは入居者の方が作った作品を販売し、収益金を社協に寄付するなどしている。職員の家族もイベントに協力してくれてホームぐるみの態勢は素晴らしい。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の中で「常会」と云う集まりがあり社長が認知症及びグループホームの話をしている歌や紙芝居のボランティアの方の訪問があるときご近所の高齢者にお声をかけるが、この集まりが高齢女性の集会場になっていて、おめかしをしお化粧をして楽しみに集まってくると云う。まさに地域に溶け込んだホームとなっている。公的な地域との繋がりでは山北町との正式な防災の契約書があること、社長が町の人権擁護委員や自治会の環境整備委員を引き受けているなど役所、地域、近所に一体化したホームとして定着している。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	オーナー及び管理者はグループホームの意義と役割を明確に認識しており、意義や役割の達成のための具体的な方針や目標を持っている。安心と尊厳ある生活を目指し職員を教育し、職員会議・ケア会議で方針・目標を示している。オーナーは地元の人で、スタートから地域密着を目指し、理念にもその思想は織り込まれている。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は利用者さん本位で作られているが、その啓発については地域密着を意識し、自治会の中で「常会」と云う集まりがあるので社長が認知症及びグループホームの話をしており、職員にもカンファレンス等で充分周知している。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の中で「常会」と云う集まりがあり社長が認知症及びグループホームの話をしている。歌や紙芝居のボランティアの方の訪問があるときご近所の高齢者にお声をかけるが、この集まりが高齢女性の集会場になっていて、おめかしをしお化粧をして楽しみに集まってくると云う。まさに地域に溶け込んだホームとなっている。近隣の方にも声かけをして絵手紙教室をホーム内で開催している。	○	地域に貢献出来るよう秋までに認知症デイを併設出来るよう検討をしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケアサービスの質の評価の意義について、職員に周知し、評価結果をサービス改善に活かす気持ちと体制がある。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は山北町等の協力を得て平成18年11月に第1回目の運営推進会議を開催した。その時は会議終了後、開催した芋煮会では利用者も参加しメンバーの方たちとの交流が持て有意義であった。この運営推進会議で隣近所よりやや広域の地域の方たち間の交流が生れるている。今年度はまだ未開催であるがイベントとの併設で開催出来るよう企画している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開所時より山北町の担当者との連携は密である。訪問介護事業所も含め地域の福祉の拠点施設となっている。山北町役場は色々な情報を教えて頂き、指導頂いている。またオーナーは引き続き町の人権擁護委員を引き受け町への協力もしている。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との連携は強く、ホーム主催のイベントにはご近所、ご家族が多く参加してくれる。納涼会は盛大で、ご近所の方も喜んでくれている。バザーでは入居者の方が作った作品を販売し、収益金を社協に寄付するなどしている。職員の家族もイベントに協力してくれてホームぐるみの態勢は素晴らしい。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員を決めている。入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で伝えている。苦情には、職員で速やかに対策案を検討して回答するとともに、サービス改善につなげている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は地元の人が多く、コミュニケーションも良く問題は無い。職員親睦会、市高齢者グループホーム部会などへも参加している。オーナー、管理者など年齢構成にも各層居て色々な場面での相談に対応できる状況にある。職員は定着している。		今後も継続して努力して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には出来るだけ研修を受講させ、その内容を職員会議等ですべての職員に報告させている。エニ介護サービスには精神保健福祉士などいるので精神面も含めた内部研修も充実している。		今後も継続して努力して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県及び横浜市のグループホーム連絡会に参加しているし、連絡会のメンバーに知り合いもいて情報交換の機会がある。中学生の体験学習受け入れの関係で社協を中心とした近隣福祉施設との横の連絡がある。また先日開催された全国グループホーム連絡会にも参加し勉強してきた。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域密着型の推進として、いきなりホームへ入所ではなく、ある段階を踏んで、徐々に、慣れた形での入所が望ましいと考えている。現在でも近隣の出入りは多く、馴染んで入居出来る体制はあるが、少し広域を考えたとき認知症デイを併設が望ましいと考え検討をしている。	○	地域に貢献出来るよう秋までに認知症デイを併設出来るよう検討をしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員側の都合で業務を進めていく態度はせず、入居者のニーズに合わせ、自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。入居者からも多々教わり支えあう関係を築いている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時、アセスメント表を記入し、生活暦をチェックした上でケア計画を作成している。ケア会議も定期的開催されている。ケアマネジャー設置の意義を理解し、ケアに科学的、計画的手法の活用に努めている。現状ではケアマネジャーのみに頼るのではなくフロアリーダーがカンファレンスを開きケア計画を作成し、ケアマネジャーチェックしてもらっている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期見直し(3ヶ月毎)の他、アセスメントや状況の変化に応じ随時見直しを実施して改善している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	エニー介護サービスは訪問介護からスタートしているので訪問介護の利用者の情報からの入居、また地域に密着しているのご近所の紹介、地域の役場、民生委員、社協などの紹介など幅広いアプローチがある。少し広域を考えたとき認知症デイを併設が望ましいと考え検討をしている。	○	地域に貢献出来るよう秋までに認知症デイを併設出来るよう検討をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	携医療機関はあり、更に入居者が自宅にかかっていた医院からも往診に来て頂いており、近くに町立の大きな病院もある。病院の地域連携室や介護支援専門員等と連携を持っており、往診の先生とは24時間連携の体制にあり、医療対応の必要な方には訪問看護ステーションも活用しているので医療連携体制は申請していないが医療面での対応は非常に良い。		今後も継続して努力して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	往診の先生は夜間、休日でも電話出来る体制にあり、ご家族と相談しながら最善の方法を講じている。		今後も継続して努力して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望したりすること妨げず大切に、それらに十分な包容を提供している。椅子を作ることが出来る人、家事を喜んで手伝う人など得意・個性を生かしたケアがなされていた。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護の厚味を増す目的で昼の食事専任の職員を配置し(朝、夕は職員が行う)、常勤の職員はケアに専念出来る体制を取っている。調理当番はいろいろ調理方法や、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。畑で取れた新鮮な野菜などがすぐに食膳に供され、食材も豪華である。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。前の施設で入浴拒否の人が今は好んで入浴するようになった。浴室はかなり費用をかけた、機能的に贅沢なもので、グループホームには勿体無いような入浴リフトやシャワー入浴装置が備え付けられている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。具体的にはテレビ番組、VTRの活用、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみなど。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、銀杏など木の実拾い、散歩、クリスマス会、演奏会、近隣との菜園等でのコミュニケーションなど戸外に出かけられるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。畑仕事、テラスでのひなたぼっこや作業など鍵の無い状態でのびのびとすごしている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については山北町、民生委員との連携がある。緊急通報体制も町の放送などで確立している。消防署と共同の避難訓練を職員中心で実施している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別日誌に記入しチェックしている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	社長の介護に対する想いが強く、かなり設備に力を入れている。前回も紹介したが圧力式空気循環装置(呼吸の道タワー)は嫌な臭いを持つ室内空気を強制還流し、職員の臭いの基を早期排除する努力と併せて臭いの無い暮らしやすい空間を作り上げている。生活空間(玄関、廊下、リビング等)はかなりゆったりとしていて、家庭的な雰囲気有している。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等の持ち込みOKで、家庭で生活していた時と同じ部屋作りを心掛け、安心して過ごせる場所となっている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

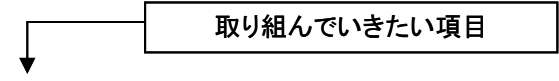
○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	エニー介護サービス
(ユニット名)	グループホームやまきた1F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県足柄上郡山北町山北785番地
記入者名 (管理者)	廣田三千代
記入日	平成20年6月2日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの意義と役割を明確に認識し、意義や役割の達成のための具体的な方針や目標を持っている。安心と尊厳ある生活を目指し職員を教育し、職員会議・ケア会議で方針・目標を示している。スタートから地域密着を目指し、理念にもその思想は織り込まれている。		今後も継続して実施して行く。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は利用者さん本位で作られているが、その啓発については地域密着を意識し、自治会の中で「常会」と云う集まりがあるので社長が認知症及びグループホームの話をしており、職員にもカンファレンス等で充分周知している。		今後も継続して実施して行く。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族へは契約時お呼び来訪時に充分説明をし理解していただくよう努めている。また地域には自治会の中で「常会」と云う集まりがあり社長が理念及びグループホームの話をしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	歌や紙芝居のボランティアの方の訪問があるときご近所の高齢者にお声をかけている。今年新たに近隣の方にも声かけをして絵手紙教室をホーム内で開催している。		今後も継続して実施して行く。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の中で「常会」と云う集まりがあり社長が認知症及びグループホームの話をしている。歌や紙芝居のボランティアの方の訪問があるときご近所の高齢者にお声をかけるが、この集まりが高齢女性の集会場になっていて、おめかしをし化粧をして楽しみに集まってくる。まさに地域に溶け込んだホームとなっている。近隣の方にも声かけをして絵手紙教室をホーム内で開催している。	○	地域に貢献出来るよう秋までに認知症デイを併設出来るよう検討をしている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>認知症の理解や関わり方についての相談対応、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等を行っている。公的な地域との繋がりは山北町との正式な防災の契約書があること、社長が町の人権擁護委員や自治会の環境整備委員を引き受けているなど役所、地域、近所に一体化したホームとして定着している。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
---	---	--	-----------------------

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>ケアサービスの質の評価の意義について、職員に周知し、評価結果をサービス改善に活かす気持ちと体制である。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は山北町等の協力を得て平成18年11月に第1回目の運営推進会議を開催した。その時は会議終了後、開催した芋煮会では利用者も参加しメンバーの方たちとの交流が持て有意義であった。この運営推進会議で隣近所よりやや広域の地域の方たち間の交流が生れている。今年度はまだ未開催であるがイベントとの併設で開催出来るよう企画している。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>開所時より山北町の担当者との連携は密である。訪問介護事業所も含め地域の福祉の拠点施設となっている。山北町役場は色々な情報を教えて頂き、指導頂いている。またオーナーは引き続き町の人権擁護委員を引き受け町への協力もしている。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>社長は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について造詣が深く、町の人権擁護委員を引き受けている。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束の弊害等、無いようについては職員は正しく認識している。高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持つようになっている。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>

項目

取り組みの事実
(実施している内容・実施していない内容)

(○印)

取り組んでいきたい内容
(すでに取り組んでいることも含む)

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書及び契約書に権利・義務が明確に書かれていて、に契約時に充分説明をし、同意を得ている。		今後も継続して実施して行く。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や意見、不満、苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員を決めている。入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で伝えている。相談や意見、不満、苦情があればそれらを運営に反映させている		今後も継続して実施して行く。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との連携は強く、ホーム主催のイベントにはご近所、ご家族が多く参加してくれる。納涼会は盛大で、ご近所の方も喜んでくれている。バザーでは入居者の方が作った作品を販売し、収益金を社協に寄付するなどしている。職員の家族もイベントに協力してくれる。		今後も継続して実施して行く。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員を決めている。入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で伝えている。苦情には、職員で速やかに対策案を検討して回答するとともに、サービス改善につなげている。		今後も継続して実施して行く。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否について職員の意見を聞き運営に反映させている。		今後も継続して実施して行く。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の要望に柔軟な対応し、昼食専門の職員を置き職員の勤務調整などに努めている。職員側の都合で業務を進めていく態度はせず、入居者のニーズに合わせ、自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		今後も継続して実施して行く。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は地元の人が多く、コミュニケーションも良い。職員親睦会、市高齢者グループホーム部会などへも参加している。年齢構成にも各層居て色々な場面での相談に対応できる状況にある。職員は定着している。		今後も継続して努力して行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	職員には出来るだけ研修を受講させ、その内容を職員会議		

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員には出来るだけ研修を受講させ、その内容を職員会議等ですべての職員に報告させている。エニー介護サービスには精神保健福祉士などもあるので精神面も含めた内部研修も充実している。</p>		<p>今後も継続して努力して行く。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>神奈川県及び横浜市のグループホーム連絡会に参加しているし、連絡会のメンバーに知り合いもいて情報交換の機会がある。中学生の体験学習受け入れの関係で社協を中心とした近隣福祉施設との横の連絡がある。また先日開催された全国グループホーム連絡会にも参加し勉強してきた。</p>		<p>今後も継続して実施して行く。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員は地元の人が多くコミュニケーションも良く問題は無い。職員親睦会、市高齢者グループホーム部会などへの参加もある。オーナー、管理者など年齢構成にも各層いて色々な場面での相談に対応できる。</p>		<p>今後も継続して実施して行く。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員には出来るだけ研修を受講させ、その内容を職員会議等ですべての職員に報告させ意欲の向上に努めている。居宅介護支援事業所長は社会福祉士・精神保健福祉士であり、精神面も含めた内部研修も充実している。</p>		<p>今後も継続して実施して行く。</p>

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所時、アセスメント表を記入し、生活暦をチェックした上でケア計画を作成し、3ヶ月に1回、アセスメントを実施し見直しを実施している。ケア会議も定期的に開催されている。</p>		<p>今後も継続して実施して行く。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホームの見学、事前面接、家庭訪問などでご家族との初期の信頼関係を充分図っている。</p>		<p>今後も継続して実施して行く。</p>
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>23項、24項により必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		<p>今後も継続して実施して行く。</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域密着型の推進として、いきなりホームへ入所ではなく、ある段階を踏んで、徐々に、慣れた形での入所が望ましいと考えている。現在でも近隣の出入りは多く、馴染んで入居出来る体制はあるが、少し広域を考えたとき認知症デイを併設が望ましいと考え検討をしている。	○	地域に貢献出来るよう秋までに認知症デイを併設出来るよう検討をしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員側の都合で業務を進めていく態度はせず、入居者のニーズに合わせ、自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。入居者からも多々教わり支えあう関係を築いている。		今後も継続して実施して行く。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を写真などで定期的、具体的に伝え共に入居者を支えている。		今後も継続して実施して行く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	共に入居者を支えることにより、本人と家族との良い関係が築いていけるように支援している。		今後も継続して実施して行く。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物、银杏など木の実拾い、散歩、クリスマス会、演奏会、近隣との菜園等でのコミュニケーションなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		今後も継続して実施して行く。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	此処はゆったりした生活と云うよりも明るい雰囲気が特徴。とは云いながらゆとり過ごしている人もいて個人個人が自由な雰囲気である。利用者同士が関わり合い、支え合える関係は出来ている		今後も継続して実施して行く。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	基本的取り決め、十分な話し合い、退所後の支援等行っている。		今後も継続して実施して行く。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。		今後も継続して実施して行く。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。		今後も継続して実施して行く。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。		今後も継続して実施して行く。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時、アセスメント表を記入し、生活暦をチェックした上でケア計画を作成している。ケア会議も定期的開催されている。ケアマネジャー設置の意義を理解し、ケアに科学的、計画的手法の活用に努めている。現状ではケアマネジャーのみに頼るのではなくフロアリーダーがカンファレンスを開きケア計画を作成し、ケアマネジャーチェックしてもらっている。		今後も継続して実施して行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期見直し(3ヶ月毎)の他、アセスメントや状況の変化に応じて随時見直しを実施して改善している。		今後も継続して実施して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個人記録・連絡ノートを情報伝達の中心と位置付け、交代の1時間重複時間に記入とポイント伝達と云う引継ぎパターンを定着させている。特に注意を要する事項は口頭で説明し注意喚起している。		今後も継続して実施して行く。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	エニー介護サービスは訪問介護からスタートしているので訪問介護の利用者の情報からの入居、また地域に密着しているので近所の紹介、地域の役場、民生委員、社協などの紹介など幅広いアプローチがある。少し広域を考えたとき認知症デイを併設が望ましいと考え検討をしている。	○	地域に貢献出来るよう秋までに認知症デイを併設出来るよう検討をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	治会を通じ、買い物や散歩等で、近所の小学校の生徒の通学途中で交流は深い。民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力している		今後も継続して実施して行く。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	神奈川県及び横浜市のグループホーム連絡会に参加しているし、連絡会のメンバーに知り合いもいて情報交換の機会がある。社協を中心とした近隣福祉施設との横の連絡がある。		今後も継続して実施して行く。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じ地域包括支援センターとの協働を行っている。	○	より協働が進むよう努力を続ける。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	携医療機関はあり、更に入居者が自宅でかかっていた医院からも往診に来て頂いており、近くに県立の大きな病院もある。病院の地域連携室や介護支援専門員等と連携を持っており、往診の先生とは24時間連携の体制にあり、医療対応の必要な方には訪問看護ステーションも活用しているので医療連携体制は申請していないが医療面での対応は良い。		今後も継続して実施して行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関があつて連携も良い。近くに大きな県立病院もある。		今後も継続して実施して行く。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診の先生は夜間、休日でも電話出来る体制にあり、ご家族と相談しながら最善の方法を講じている。訪問看護ステーションの活用や往診の先生のところの看護師にも相談出来る体制にある。		今後も継続して実施して行く。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院の地域連携室や介護支援専門員等と連携を持っている。		今後も継続して実施して行く。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	往診の先生は夜間、休日でも電話出来る体制にあり、ご家族と相談しながら最善の方法を講じている。		今後も継続して努力して行く。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療の面では連携体制の申請はしていないが近隣の開業医による往診と24時間連携の確保、訪問看護ステーションの活用などで実質、医療連携体制以上のケアが実現出来ている。		今後も継続して努力して行く。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	エニー介護サービスはこのグループホームの他に訪問介護・居宅介護支援事業所を持ち、多機能で利用できるようになっており住み替えによるダメージを防ぐ体制にある。		今後も継続して努力して行く。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。		今後も継続して実施して行く。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望したりすること妨げず大切に、それらに十分な包容を提供している。		今後も継続して実施して行く。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望したりすること妨げず大切に、それらに十分な包容を提供している。椅子を作ることが出来る人、家事を喜んで手伝う人など得意・個性を生かしたケアを行っている。。		今後も継続して実施して行く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容院へは希望後2～3日で対応している。整容の乱れ、衣類の乱れ、履き物の乱れ、食べこぼしの汚れ、口のまわり等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。		今後も継続して実施して行く。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	介護の厚味を増す目的で昼の食事専任の職員を配置し(朝、夕は職員が行う)、常勤の職員はケアに専念出来る体制を取っている。調理当番はいろいろ調理方法や、おいしいような盛り付けの工夫をしている。畑で取れた新鮮な野菜などがすぐに食膳に供され、食材も豪華である。		今後も継続して実施して行く。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む嗜好品や好みのものを一人ひとりの状況に合わせて楽しめるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。		今後も継続して実施して行く。
	○入浴を楽しむことができる支援	入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができる		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ように支援している。前の施設で入浴拒否の人が今は好んで入浴するようになった。浴室はかなり費用をかけた、機能的に贅沢なもので、グループホームには勿体無いような入浴リフトやシャワー入浴装置が備え付けられている。		今後も継続して実施して行く。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムで昼間活発にしてもらい夜眠れるように仕向けたりしている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。具体的にはテレビ番組、VTRの活用、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみなど。		今後も継続して実施して行く。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理出来る人はを本人が行えるよう、出来ない人は家族と相談しかかった費用の明細と請求の了解を。力量に応じて支援している。		今後も継続して実施して行く。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、銀杏など木の実拾い、散歩、クリスマス会、演奏会、近隣との菜園等でのコミュニケーションなど戸外に出かけられるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとり行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と共同で入居者の希望をかなえるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援をしている。		今後も継続して実施して行く。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアを実施している。		今後も継続して実施して行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。畑仕事、テラスでのひなたぼっこや作業など鍵の無い状態でのびのびとすごしている。		今後も継続して実施して行く。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		今後も継続して実施して行く。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。		今後も継続して実施して行く。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ヒヤリ・ハット」「事故報告書」がある。反省と活用を心がけている。		今後も継続して実施して行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができるよう研修会にも参加させ、実施訓練もしている。		今後も継続して実施して行く。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については山北町、民生委員との連携がある。緊急通報体制も町の放送などで確立している。消防署と共同の避難訓練を職員中心で実施している。		今後も継続して実施して行く。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについて家族等に説明し、対応策を話し合っている。		今後も継続して実施して行く。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	基本的に日常の様子とバイタルデータにより早めに受診させ、早期発見、早期治療に努めている。病院に入院した場合にはバイタルデータ等を提供し医療機関に協力する。		今後も継続して実施して行く。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。		今後も継続して実施して行く。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等支援している。		今後も継続して実施して行く。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケア(歯磨き)の実施、歯科検診など、定時のチェックと個別対応をおこなっている。		今後も継続して実施して行く。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別日誌に記入しチェックしている。		今後も継続して実施して行く。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての学習会などを行い、予防・早期発見・早期対応に努めている。		今後も継続して実施して行く。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ホーム内の清潔や衛生を保持している。食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等につき取り決めがあり実施している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	車の少ない住宅地にあり、交通事故の危険が少ないこともあり、玄関の施錠はせず、普通の家玄関に近い感じがある。郊外の住宅地なので玄関・テラス・垣根が近隣とマッチし自然で気楽に訪ねられる雰囲気を持っている。		今後も継続して実施して行く。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	圧力式空気循環装置(呼吸の道タワー)は嫌な臭いを持つ室内空気を強制還流し、職員の臭いの基を早期排除する努力と併せて臭いの無い暮らしやすい空間を作り上げている。生活空間(玄関、廊下、リビング等)はかなりゆったりとしていて、家庭的な雰囲気を持している。		今後も継続して実施して行く。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ダイニングのスペースはかなり広い。普段は食卓のあるスペースとソファとTVのあるスペースに分けて使っているが、プロの歌手を招いての演奏会などのとき、ご近所の人を招いても大丈夫な広さで、日常生活は快適である。		今後も継続して実施して行く。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等の持ち込みOKで、家庭で生活していた時と同じ部屋作りを心掛け、安心して過ごせる場所となっている。		今後も継続して実施して行く。
	○換気・空調の配慮	圧力式空気循環装置(呼吸の道タワー)は嫌な臭いを持つ室内空気を強制還流し、職員の臭いの基を早期排除する努力と併せて臭いの無い暮らしやすい空間を作り上げている。生活空間(玄関、廊下、リビング等)はかなりゆったりとしていて、家庭的な雰囲気を持している。		

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>これも「ルーフホームには勿体無いよつな！呼吸の追グラー」(圧力式空気循環装置)を設置し、強制的に空気置換がされるため、室内が良い空気に浄化され、臭気を強制排気して快適である。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>日々安全かつ自立を目指した生活を送れるよう工夫している。散歩等近所が安全で空気も良いため、生活リハビリでの機能維持を心掛けている。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>大き目の時計を設置し、日めくりを利用者が毎朝めくるなどして時を認識してもらっている。季節季節の行事もあり、周囲の事前は季節感を感じるのに役立っている。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>地域との関係は良く、建設段階から近所が完成を楽しみにしている状況で地域との関係は良い。この前が小学校の通学路となっていて子供が声をかけ、時には遊びに来たりして良い関係にある。ウッドデッキは道に面していて塀越しに子供や近隣の人とのコミュニケーションが成立している。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的なかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	エニー介護サービス
(ユニット名)	グループホームやまきた2F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県足柄上郡山北町山北785番地
記入者名 (管理者)	廣田三千代
記入日	平成20年6月2日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

↓

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		今後も継続して実施して行く。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		今後も継続して実施して行く。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		今後も継続して実施して行く。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域に貢献出来るよう秋までに認知症デイを併設出来るよう検討をしている。
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>認知症の理解や関わり方についての相談対応、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等を行っている。公的な地域との繋がりは山北町との正式な防災の契約書があること、社長が町の人権擁護委員や自治会の環境整備委員を引き受けているなど役所、地域、近所に一体化したホームとして定着している。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
---	---	--	-----------------------

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>ケアサービスの質の評価の意義について、職員に周知し、評価結果をサービス改善に活かす気持ちと体制である。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は山北町等の協力を得て平成18年11月に第1回目の運営推進会議を開催した。その時は会議終了後、開催した芋煮会では利用者も参加しメンバーの方たちとの交流が持て有意義であった。この運営推進会議で隣近所よりやや広域の地域の方たち間の交流が生れている。今年度はまだ未開催であるがイベントとの併設で開催出来るよう企画している。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>開所時より山北町の担当者との連携は密である。訪問介護事業所も含め地域の福祉の拠点施設となっている。山北町役場は色々な情報を教えて頂き、指導頂いている。またオーナーは引き続き町の人権擁護委員を引き受け町への協力もしている。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>社長は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について造詣が深く、町の人権擁護委員を引き受けている。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束の弊害等、無いようについては職員は正しく認識している。高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持つようになっている。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>

項目

取り組みの事実
(実施している内容・実施していない内容)

(○印)

取り組んでいきたい内容
(すでに取り組んでいることも含む)

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書及び契約書に権利・義務が明確に書かれていて、に契約時に充分説明をし、同意を得ている。		今後も継続して実施して行く。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や意見、不満、苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員を決めている。入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で伝えている。相談や意見、不満、苦情があればそれらを運営に反映させている		今後も継続して実施して行く。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との連携は強く、ホーム主催のイベントにはご近所、ご家族が多く参加してくれる。納涼会は盛大で、ご近所の方も喜んでくれている。バザーでは入居者の方が作った作品を販売し、収益金を社協に寄付するなどしている。職員の家族もイベントに協力してくれる。		今後も継続して実施して行く。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員を決めている。入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で伝えている。苦情には、職員で速やかに対策案を検討して回答するとともに、サービス改善につなげている。		今後も継続して実施して行く。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否について職員の意見を聞き運営に反映させている。		今後も継続して実施して行く。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の要望に柔軟な対応し、昼食専門の職員を置き職員の勤務調整などに努めている。職員側の都合で業務を進めていく態度はせず、入居者のニーズに合わせ、自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		今後も継続して実施して行く。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は地元の人が多く、コミュニケーションも良い。職員親睦会、市高齢者グループホーム部会などへも参加している。年齢構成にも各層居て色々な場面での相談に対応できる状況にある。職員は定着している。		今後も継続して努力して行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	職員には出来るだけ研修を受講させ、その内容を職員会議		

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員には出来るだけ研修を受講させ、その内容を職員会議等ですべての職員に報告させている。エニー介護サービスには精神保健福祉士などもあるので精神面も含めた内部研修も充実している。</p>		<p>今後も継続して努力して行く。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>神奈川県及び横浜市のグループホーム連絡会に参加しているし、連絡会のメンバーに知り合いもいて情報交換の機会がある。中学生の体験学習受け入れの関係で社協を中心とした近隣福祉施設との横の連絡がある。また先日開催された全国グループホーム連絡会にも参加し勉強してきた。</p>		<p>今後も継続して実施して行く。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員は地元の人が多くコミュニケーションも良く問題は無い。職員親睦会、市高齢者グループホーム部会などへの参加もある。オーナー、管理者など年齢構成にも各層いて色々な場面での相談に対応できる。</p>		<p>今後も継続して実施して行く。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員には出来るだけ研修を受講させ、その内容を職員会議等ですべての職員に報告させ意欲の向上に努めている。居宅介護支援事業所長は社会福祉士・精神保健福祉士であり、精神面も含めた内部研修も充実している。</p>		<p>今後も継続して実施して行く。</p>

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所時、アセスメント表を記入し、生活暦をチェックした上でケア計画を作成し、3ヶ月に1回、アセスメントを実施し見直しを実施している。ケア会議も定期的に開催されている。</p>		<p>今後も継続して実施して行く。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホームの見学、事前面接、家庭訪問などでご家族との初期の信頼関係を充分図っている。</p>		<p>今後も継続して実施して行く。</p>
<p>項 目</p>		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	<p>(○印)</p>	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>23項、24項により必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		<p>今後も継続して実施して行く。</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域密着型の推進として、いきなりホームへ入所ではなく、ある段階を踏んで、徐々に、慣れた形での入所が望ましいと考えている。現在でも近隣の出入りは多く、馴染んで入居出来る体制はあるが、少し広域を考えたとき認知症デイを併設が望ましいと考え検討をしている。	○	地域に貢献出来るよう秋までに認知症デイを併設出来るよう検討をしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員側の都合で業務を進めていく態度はせず、入居者のニーズに合わせ、自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。入居者からも多々教わり支えあう関係を築いている。		今後も継続して実施して行く。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を写真などで定期的、具体的に伝え共に入居者を支えている。		今後も継続して実施して行く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	共に入居者を支えることにより、本人と家族との良い関係が築いていけるように支援している。		今後も継続して実施して行く。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物、银杏など木の実拾い、散歩、クリスマス会、演奏会、近隣との菜園等でのコミュニケーションなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		今後も継続して実施して行く。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	此処はゆったりした生活と云うよりも明るい雰囲気が特徴。とは云いながらゆっくり過ごしている人もいて個人個人が自由な雰囲気である。利用者同士が関わり合い、支え合える関係は出来ている		今後も継続して実施して行く。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	基本的取り決め、十分な話し合い、退所後の支援等行っている。		今後も継続して実施して行く。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。		今後も継続して実施して行く。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。		今後も継続して実施して行く。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。		今後も継続して実施して行く。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時、アセスメント表を記入し、生活暦をチェックした上でケア計画を作成している。ケア会議も定期的開催されている。ケアマネジャー設置の意義を理解し、ケアに科学的、計画的手法の活用に努めている。現状ではケアマネジャーのみに頼るのではなくフロアリーダーがカンファレンスを開きケア計画を作成し、ケアマネジャーチェックしてもらっている。		今後も継続して実施して行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期見直し(3ヶ月毎)の他、アセスメントや状況の変化に応じて随時見直しを実施して改善している。		今後も継続して実施して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個人記録・連絡ノートを情報伝達の中心と位置付け、交代の1時間重複時間に記入とポイント伝達と云う引継ぎパターンを定着させている。特に注意を要する事項は口頭で説明し注意喚起している。		今後も継続して実施して行く。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	エニー介護サービスは訪問介護からスタートしているので訪問介護の利用者の情報からの入居、また地域に密着しているので近所の紹介、地域の役場、民生委員、社協などの紹介など幅広いアプローチがある。少し広域を考えたとき認知症デイを併設が望ましいと考え検討をしている。	○	地域に貢献出来るよう秋までに認知症デイを併設出来るよう検討をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	治会を通じ、買い物や散歩等で、近所の小学校の生徒の通学途中で交流は深い。民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力している		今後も継続して実施して行く。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	神奈川県及び横浜市のグループホーム連絡会に参加しているし、連絡会のメンバーに知り合いもいて情報交換の機会がある。社協を中心とした近隣福祉施設との横の連絡がある。		今後も継続して実施して行く。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じ地域包括支援センターとの協働を行っている。	○	より協働が進むよう努力を続ける。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	携医療機関はあり、更に入居者が自宅でかかっていた医院からも往診に来て頂いており、近くに県立の大きな病院もある。病院の地域連携室や介護支援専門員等と連携を持っており、往診の先生とは24時間連携の体制にあり、医療対応の必要な方には訪問看護ステーションも活用しているので医療連携体制は申請していないが医療面での対応は良い。		今後も継続して実施して行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関があつて連携も良い。近くに大きな県立病院もある。		今後も継続して実施して行く。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診の先生は夜間、休日でも電話出来る体制にあり、ご家族と相談しながら最善の方法を講じている。訪問看護ステーションの活用や往診の先生のところの看護師にも相談出来る体制にある。		今後も継続して実施して行く。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院の地域連携室や介護支援専門員等と連携を持っている。		今後も継続して実施して行く。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	往診の先生は夜間、休日でも電話出来る体制にあり、ご家族と相談しながら最善の方法を講じている。		今後も継続して努力して行く。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療の面では連携体制の申請はしていないが近隣の開業医による往診と24時間連携の確保、訪問看護ステーションの活用などで実質、医療連携体制以上のケアが実現出来ている。		今後も継続して努力して行く。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	エニー介護サービスはこのグループホームの他に訪問介護・居宅介護支援事業所を持ち、多機能で利用できるようになっており住み替えによるダメージを防ぐ体制にある。		今後も継続して努力して行く。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。		今後も継続して実施して行く。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望したりすること妨げず大切に、それらに十分な包容を提供している。		今後も継続して実施して行く。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望したりすること妨げず大切に、それらに十分な包容を提供している。椅子を作ることが出来る人、家事を喜んで手伝う人など得意・個性を生かしたケアを行っている。。		今後も継続して実施して行く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容院へは希望後2～3日で対応している。整容の乱れ、衣類の乱れ、履き物の乱れ、食べこぼしの汚れ、口のまわり等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。		今後も継続して実施して行く。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	介護の厚味を増す目的で昼の食事専任の職員を配置し(朝、夕は職員が行う)、常勤の職員はケアに専念出来る体制を取っている。調理当番はいろいろ調理方法や、おいしいような盛り付けの工夫をしている。畑で取れた新鮮な野菜などがすぐに食膳に供され、食材も豪華である。		今後も継続して実施して行く。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む嗜好品や好みのものを一人ひとりの状況に合わせて楽しめるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。		今後も継続して実施して行く。
	○入浴を楽しむことができる支援	入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができる		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ように支援している。前の施設で入浴拒否の人が今は好んで入浴するようになった。浴室はかなり費用をかけた、機能的に贅沢なもので、グループホームには勿体無いような入浴リフトやシャワー入浴装置が備え付けられている。		今後も継続して実施して行く。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムで昼間活発にしてもらい夜眠れるように仕向けたりしている。		今後も継続して実施して行く。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。具体的にはテレビ番組、VTRの活用、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみなど。		今後も継続して実施して行く。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理出来る人はを本人が行えるよう、出来ない人は家族と相談しかかった費用の明細と請求の了解を。力量に応じて支援している。		今後も継続して実施して行く。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、銀杏など木の実拾い、散歩、クリスマス会、演奏会、近隣との菜園等でのコミュニケーションなど戸外に出かけられるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と共同で入居者の希望をかなえるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援をしている。		今後も継続して実施して行く。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアを実施している。		今後も継続して実施して行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。畑仕事、テラスでのひなたぼっこや作業など鍵の無い状態でのびのびとすごしている。		今後も継続して実施して行く。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		今後も継続して実施して行く。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。		今後も継続して実施して行く。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ヒヤリ・ハット」「事故報告書」がある。反省と活用を心がけている。		今後も継続して実施して行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができるよう研修会にも参加させ、実施訓練もしている。		今後も継続して実施して行く。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策については山北町、民生委員との連携がある。緊急通報体制も町の放送などで確立している。消防署と共同の避難訓練を職員中心で実施している。		今後も継続して実施して行く。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについて家族等に説明し、対応策を話し合っている。		今後も継続して実施して行く。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	基本的に日常の様子とバイタルデータにより早めに受診させ、早期発見、早期治療に努めている。病院に入院した場合にはバイタルデータ等を提供し医療機関に協力する。		今後も継続して実施して行く。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。		今後も継続して実施して行く。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等支援している。		今後も継続して実施して行く。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケア(歯磨き)の実施、歯科検診など、定時のチェックと個別対応をおこなっている。		今後も継続して実施して行く。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別日誌に記入しチェックしている。		今後も継続して実施して行く。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての学習会などを行い、予防・早期発見・早期対応に努めている。		今後も継続して実施して行く。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ホーム内の清潔や衛生を保持している。食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等につき取り決めがあり実施している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	車の少ない住宅地にあり、交通事故の危険が少ないこともあり、玄関の施錠はせず、普通の家玄関に近い感じがある。郊外の住宅地なので玄関・テラス・垣根が近隣とマッチし自然で気楽に訪ねられる雰囲気を持っている。		今後も継続して実施して行く。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	圧力式空気循環装置(呼吸の道タワー)は嫌な臭いを持つ室内空気を強制還流し、職員の臭いの基を早期排除する努力と併せて臭いの無い暮らしやすい空間を作り上げている。生活空間(玄関、廊下、リビング等)はかなりゆったりとしていて、家庭的な雰囲気を持っている。		今後も継続して実施して行く。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ダイニングのスペースはかなり広い。普段は食卓のあるスペースとソファとTVのあるスペースに分けて使っているが、プロの歌手を招いての演奏会などのとき、ご近所の人を招いても大丈夫な広さで、日常生活は快適である。		今後も継続して実施して行く。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等の持ち込みOKで、家庭で生活していた時と同じ部屋作りを心掛け、安心して過ごせる場所となっている。		今後も継続して実施して行く。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>これも「ルーフホームには勿体無いよつな呼吸の追グラー」(圧力式空気循環装置)を設置し、強制的に空気置換がされるため、室内が良い空気に浄化され、臭気を強制排気して快適である。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>日々安全かつ自立を目指した生活を送れるよう工夫している。散歩等近所が安全で空気も良いため、生活リハビリでの機能維持を心掛けている。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>大き目の時計を設置し、日めくりを利用者が毎朝めくるなどして時を認識してもらっている。季節季節の行事もあり、周囲の事前は季節感を感じるのに役立っている。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>地域との関係は良く、建設段階から近所が完成を楽しみにしている状況で地域との関係は良い。この前が小学校の通学路となっていて子供が声をかけ、時には遊びに来たりして良い関係にある。ウッドデッキは道に面していて塀越しに子供や近隣の人とのコミュニケーションが成立している。</p>	<p>今後も継続して実施して行く。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)